

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23320041

研究課題名(和文) 東アジアに展開した儒教文化の視覚イメージに関する復元研究

研究課題名(英文) Restoration study about visual images of the Confucianism culture that had developed in East Asia

研究代表者

柴田 良貴 (SHIBATA, Yoshiki)

筑波大学・芸術系・教授

研究者番号：90178913

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,800,000円

研究成果の概要(和文)：1923(大正12)年、関東大震災によって焼失した湯島聖堂本尊孔子像を、乾漆技法による造像及び日本画顔料による彩色によって復元した(「湯島聖堂本尊孔子胡坐像(彩色復元像)」)。また、主として江戸前期の美術資料に基づく孔子袞冕倚像を想定し、日本的な造像表現を素地とする復元制作を行った(「孔子袞冕倚像」)。更に、関連する成果物として、康晋及び新海竹太郎によって造られた「大成殿孔子尊像」のマスクの模刻2点、英一蝶《孔子画像》の模写、孔子坐像3次元コンピューターグラフィックスがある。

研究成果の概要(英文)：Confucius statue of Yushima temple restored by Kanshitsu technique and Japanese-style painting that was destroyed by fire caused of the Great Kanto Earthquake in 1923. Restored Confucius Mian guan-style statue based on source materials of early period of Edo era and Japanese sculpture expression for the most part in this study. Furthermore, there are three related artifacts. Reproduction masks of Confucius statue created by Kouon and Shinkai Taketarou, reproduction painting of Confucius image painted by Hanabusaicchou and 3D computer graphics of Confucius statue of Yushima temple.

研究分野：塑造研究

キーワード：復元制作 孔子像 倚像 脱活乾漆像 造像 彩色 3D 湯島聖堂

1. 研究開始当初の背景

本研究の端緒は、平成 15～16 年度に行われた「美術資料による江戸前期湯島聖堂の研究」(三菱財団人文科学分野助成)である。この研究では、大正の震災によって焼失した湯島聖堂本尊孔子像を、石膏(無彩色)によって復元することを目的としており、明治期の古写真及び彫刻家新海竹太郎による模刻の写真を主要な研究資料に据えた。

次いで、本研究の分担者である藤田志朗(筑波大学教授)が代表を務めた科研費「江戸前期儒教絵画と彫刻の復元研究」(平成 17 年度～19 年度)において、上述の孔子像の形態の推敲及び四配像の復元制作に着手した。この研究では、足利学校に安置される新海作のブロンズ小像(模刻)の実見調査が適ったことにより、この模刻像の多方向からの貴重な写真資料を得ることができた。これにより、より具体的な像の厚みや衣の抑揚などが明らかとなったため、孔子像については石膏直付け技法による更なる形態の推敲を図ることが可能となり、四配像においては粘土での試行錯誤を繰り返し行った。そのため、この五体の完成までには約二年を要した。

なお、石膏原型の完成と同時期に、湯島聖堂孔子祭復活百周年記念事業が開かれたため、この事業の一環として五体の復元像がブロンズに鑄造され、後に大成殿に安置されることとなった。

以上が研究開始当初の背景としてあげられる。

2. 研究の目的

本研究では、上記の孔子復元像を日本古来の仏像技法である脱活乾漆技法によって再度造像し、形態の推敲及び細部の修正を重ねた後に、更に日本画顔料による彩色を施すことによって、焼失以前の本来の彩色像として復元することを目的の一つとした。

更に、本研究では現代における孔子像の創出を主たる目的に据えた。この目的については、以下に詳細を記す。

(1) 袞冕像について

孔子はその姿から、行教像、司寇像、袞冕像に分けられる。これは、孔子の地位が時代と歴代皇帝の尊崇の程度によって変化し、時に応じて位階が昇格したためである。

袞冕像は皇帝の姿で表現される。袞は袞服を指し、皇帝が着る礼装を言う。また冕は皇帝の冠で、冕板を載せ、その前後に旒を垂らし、相貌が直に伺えないような肖像表現として造られている。孔子は天皇に次ぐ位に昇進するに及んで、袞冕像として表現されるようになった。特に袞服には皇帝を表わす十二章の意匠が文様として描きこまれており、それが我が国においても「孔子像」の表現に影響している。

(2) 我が国の孔子像とその表現

『延喜式』によると古代の孔子祭典が大学

寮で行われる折には、孔子像やその弟子である顔子など九哲の画像が掛けられていたことが伝えられている。しかし、孔子の彫像については明らかでなく、中世においては、現在の足利学校に安置される「孔子坐像」が最も古い肖像彫刻と考えられている。この像は、座主(学校長)が禅僧で、中世では禅僧の教養として儒学を学んでいたことから、禅僧の肖像彫刻、いわゆる頂相が仏師によって造像されていた。この孔子の坐像は頭巾を冠り、安座した姿として作られ、仏坐像のように孔子の姿が表現されていたことがうかがえる。

古代から中世にかけての孔子像は、このような経緯によってその姿が表現されたが、近世に至ると、江戸幕府が儒教を幕府教学に位置づけたため、新たな聖堂と孔子像が求められた。江戸幕府による林羅山の招請と忍岡聖堂の創建により、近世の新しい首都に孔子廟が完成した。聖堂に祀られた孔子像は七条大仏師康音の作で、足利学校同様に仏坐像のような胡坐像であった。

足利学校像との相違は、頭巾をかぶらず、司寇冠を頭上に載せた姿として制作されている点である。その姿は先述したように中国歴代皇帝の尊崇によって、位階昇格が行われ、その情報によって我が国の孔子像が変化していったと考えられる。

その後、忍岡聖堂は幕府教学の拠点として湯島の地に移り、現在の湯島聖堂大成殿に孔子像が安置されたのである。これ以後、諸藩においても孔子を祀るようになり、特に元禄以降には孔子の新たな造形、孔子袞冕像が岡山県の閑谷学校、佐賀県の多久聖廟にて造像された。両者は同じ様式のブロンズの孔子像で、これまでの仏師による孔子像とは異なるものであった。像は、中国の孔子像を模した椅像で、冕冠を付け、袞服に皇帝文様の十二章の意匠が表現されている。近世までの我が国の孔子像はこのような造形的な変化を見せていたことがうかがえる。

(3) 現代の孔子袞冕像の創出について

本復元研究は先述の通り、大正の震災によって失われた湯島聖堂本尊の復元研究からはじまっている。並行して、史跡湯島聖堂の管理団体である公益財団法人斯文会が所蔵する絵画資料の悉皆調査も行い、江戸時代の孔子画像の調査も行った。斯文会には狩野探幽の高弟、英一蝶筆《孔子画像》が収蔵されていたが、本像は江戸時代の孔子像の典型的な表現であることから、我が国における孔子像のビジュアルイメージをこの像によってうかがい知ることができ、また併せて、閑谷学校《孔子像》の熟覧調査によって、孔子の位階昇格した袞冕の造形を立体と平面の美術資料によって確認することができた。

東アジア諸地域の大成殿の礼拝空間における孔子を祀る表象について、臨地調査に及んだところ、礼拝の対象は孔子の位牌、あるいはその姿を映した彫像、あるいは画像で、

曲阜等中国の孔子像は彫像では豊満な体軀の造形として作られており、韓国では偶像ではなく位牌、また台湾では位牌や偶像による礼拝が行われている。

現代の孔子袞冕倚像の創出とは、我が国が経てきた孔子像の視覚イメージに関する調査研究を基盤とする日本的な孔子像の案出である。中国で醸成された孔子のイメージが、漢字文化圏と儒教文化圏によって同範的な広がりを見せ、孔子像伝播の歴史的な同化と異化の繰り返しの中で、我が国の孔子像が形成された。

以上を踏まえ、我が国特有の孔子袞冕像を案出することによって、東アジアにおけるこれからの学術的な研究交流の象徴的な造像を創出することが、本研究の主たる目的である。

3. 研究の方法

(1)湯島聖堂大成殿本尊孔子像について、一度復元されたブロンズ像を乾漆像におこすため、先述の鑄造の際に作製していたシリコン型を用いて漆の張り込みを行った。

孔子像の彩色については、渡辺小華（1835-1887年）筆《孔子像》（斯文会蔵）の実見調査によって得られたデータを主要な資料に据えた。調査での情報をもとに想定復元意匠図を作成、さらに使用する絵具も検討しながら日本画による彩色想定復元図を制作した。そしてこの復元図で想定した色彩をもとにCGによって孔子像をコンピューター上に再現し、彩色された孔子像の画像イメージを把握した上で日本画顔料により彩色を施した。

(2)孔子袞冕倚像について、研究代表者の継続的な制作研究を含む調査及び考証を基に、材質や彩色の方法を決定したが、当像制作の完成までには二年以上の月日を要した。江戸前期から中期に至る我が国に残存する孔子の画軸や、閑谷学校大成殿のブロンズの孔子倚像をその原型として捉え、研究代表者の彫刻観及び筑波大学における彫塑教育の造形指針等も尊重し、現在の日本において復元可能な等身の脱活乾漆像を平成の今に再現するという方針のもと、研究に着手した。

彩色では像造を担当した研究代表者の意匠を踏まえ、造形作品としての意匠性や色彩の調和なども鑑みながら、芸術性の高い表現を目指した。

皇帝がまとう袞服に配される文様の描き入れに際し、上述の岡山県備前市の旧閑谷学校大成殿に安置される孔子像の実見調査による画像資料から、像に刻印された十二章の意匠を抽出した。これを基に、適宜創作的な表現を取り入れながら十二章の意匠を決定した。この配色については、英一蝶筆《孔子画像》に見られる十二章の彩色などを参考にしている。また、十二章の配置については、先述の写真資料に加え『闕里志 卷之一 図

象誌』より大成至聖文宣王之像(袞冕像)》も検討の参考とし、配置における疎密や色味のバランスに配慮しながら検討を進めた。

4. 研究成果

本研究の成果物を以下に示す。



左：康音作「大成殿孔子尊像」マスク模刻（テラコッタ）

右：新海竹太郎作「大成殿孔子尊像」マスク模刻（テラコッタ）



孔子坐像の3次元コンピューターグラフィックス



湯島聖堂本尊孔子胡坐像（彩色復元像）

一驅 乾漆・彩色



金泥による文様（部分）
丸龍文様と花唐草文様



左；英一蝶《孔子画像》（斯文会蔵）の模写
右；孔子袞冕倚像（乾漆素材での完成）



孔子袞冕倚像-江戸前期の美術資料による-
一驅 等身 乾漆・彩色（正面図）



孔子袞冕倚像-江戸前期の美術資料による-
一驅 等身 乾漆・彩色（斜面図）

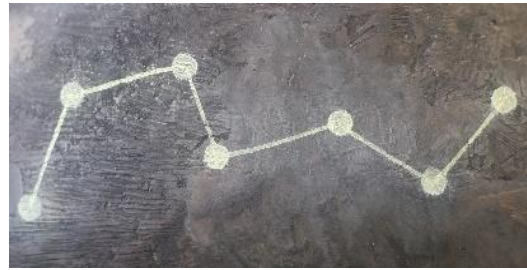
[十二章図]



①日



②月



③星辰



④山



⑤龍



⑥華虫



⑦藻



⑧宗彝



⑨火



⑩黼



⑪黻



⑫粉米

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

- ① 柴田 良貴、乾漆による彩色孔子胡坐像及び孔子袞冕倚像の復元制作、「東アジアに展開した儒教文化の視覚イメージに関する復元研究」報告書、査読無、2016、8-29
- ② 木村 浩、孔子坐像の3次元コンピュータグラフィックスによる彩色復元の研究、「東アジアに展開した儒教文化の視覚イメージに関する復元研究」報告書、査読無、2016、30-31
- ③ 程塚 敏明、湯島聖堂本尊「孔子像」の彩色復元-柴田良貴作復元乾漆像への彩色

の試み-、「東アジアに展開した儒教文化の視覚イメージに関する復元研究」報告書、査読無、2016、32-33

- ④ 程塚 敏明、藤田 志朗、菅野 智明、柴田良貴作 乾漆像「孔子袞冕倚像」への彩色、「東アジアに展開した儒教文化の視覚イメージに関する復元研究」報告書、査読無、2016、34-38
- ⑤ 藤田 志朗、菅野 智明、英一蝶《孔子画像》(斯文会蔵)の模写、「東アジアに展開した儒教文化の視覚イメージに関する復元研究」報告書、査読無、2016、38-39
- ⑥ 守屋 正彦、孔子像袞冕像復元の意味-東アジアにおける孔子像と日本、「東アジアに展開した儒教文化の視覚イメージに関する復元研究」報告書、査読無、2016、5-7
- ⑦ 程塚 敏明、湯島聖堂孔子像の造像当初における彩色の想定、芸術研究報(筑波大学芸術学系研究報告)、査読有 34(63)、2014、23-34
- ⑧ 菅野 智明、虞世南〈孔子廟堂碑〉原刻拓想定の試み、芸術研究報・作品集(筑波大学芸術学系研究報告)、査読無、25(62)、2014、21-39

〔学会発表〕(計9件)

- ① 「孔子像復元研究成果公開シンポジウム」、柴田 良貴、「湯島聖堂本尊孔子像並びに袞冕像の復元について」、史跡湯島聖堂・公益財団法人斯文会講堂(東京都文京区)、2016年3月6日
- ② 「孔子像復元研究成果公開シンポジウム」、木村 浩、「湯島聖堂本尊孔子像並びに袞冕像の復元について」、史跡湯島聖堂・公益財団法人斯文会講堂(東京都文京区)、2016年3月6日
- ③ 「孔子像復元研究成果公開シンポジウム」、藤田 志朗、「湯島聖堂本尊孔子像並びに袞冕像の復元について」、史跡湯島聖堂・公益財団法人斯文会講堂(東京都文京区)、2016年3月6日
- ④ 「孔子像復元研究成果公開シンポジウム」、程塚 敏明、「湯島聖堂本尊孔子像並びに袞冕像の復元について」、史跡湯島聖堂・公益財団法人斯文会講堂(東京都文京区)、2016年3月6日
- ⑤ 「東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議」、柴田 良貴、「湯島聖堂大成殿孔子並びに四配像の復元制作」、史跡湯島聖堂・公益財団法人斯文会講堂

(東京都文京区)、2011年8月5日

- ⑥ 「東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議」、木村 浩、「湯島聖堂大成殿内部空間の再現」、史跡湯島聖堂・公益財団法人斯文会講堂(東京都文京区)、2011年8月5日
- ⑦ 「東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議」、菅野 智明、「虞世南《孔子廟堂碑》原拓想定の視点」、史跡湯島聖堂・公益財団法人斯文会講堂(東京都文京区)、2011年8月5日
- ⑧ 「東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議」、藤田 志朗、程塚 敏明、「賢儒画像扁額の模写及び復元制作」、史跡湯島聖堂・公益財団法人斯文会講堂(東京都文京区)、2011年8月5日
- ⑨ 「東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議」、守屋 正彦、「我が国における儒教美術の受容」、史跡湯島聖堂・公益財団法人斯文会講堂(東京都文京区)、2011年8月5日

[図書] (計2件)

- ① 柴田良貴、木村浩、菅野智明、藤田志朗、程塚敏明、守屋正彦、筑波大学大学院彫塑研究室(柴田研究室)出版、「東アジアに展開した儒教文化の視覚イメージに関する復元研究」、2016、40
- ② 守屋 正彦、筑波大学大学院日本美術研究室(守屋研究室)出版、東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議報告集、2013、123

[その他]

研究成果公開

- ① 「孔子像復元研究成果公開」、史跡湯島聖堂大成殿(東京都文京区)、2016年3月5日～21日
- ② 「よみがえる孔子像と学問の楚」、筑波大学東京キャンパス文京校舎1階ロビー(東京都文京区)、2015年10月25日～11月3日
- ③ 「儒教美術はじめの一步」、Bivi つくば2階サテライトオフィス(茨城県つくば市)、2015年9月5日～6日
- ④ 文化財復元研究成果公開「湯島聖堂本尊孔子像彩色復元特別展～聖堂ゆかりの狩野派絵画～」、筑波大学附属図書館及び筑波大学学生会館アトスペース(茨城県つくば市)、2015年4月3日～12日(アトスペース公開分は4月29日まで開

催)

作品解説

- ① 「孔子像復元研究成果公開」、柴田良貴、木村浩、藤田志朗、程塚敏明、守屋正彦、史跡湯島聖堂大成殿(東京都文京区)、2016年3月6日
- ② 「よみがえる孔子像と学問の楚」、柴田良貴、木村浩、藤田志朗、程塚敏明、守屋正彦、筑波大学東京キャンパス文京校舎1階ロビー(東京都文京区)、2015年10月25日・31日
- ③ 「儒教美術はじめの一步」、木村浩、程塚敏明、守屋正彦、Bivi つくば2階サテライトオフィス(茨城県つくば市)、2015年9月6日
- ④ 文化財復元研究成果公開「湯島聖堂本尊孔子像彩色復元特別展～聖堂ゆかりの狩野派絵画～」、柴田良貴、木村浩、藤田志朗、程塚敏明、守屋正彦、筑波大学附属図書館及び筑波大学学生会館アトスペース(茨城県つくば市)、2015年4月3日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

柴田 良貴 (SHIBATA, Yoshiki)
筑波大学・芸術系・教授
研究者番号：90178913

(2) 研究分担者

木村 浩 (KIMURA, Hiroshi)
筑波大学・芸術系・准教授
研究者番号：60241808

菅野 智明 (KANNO, Chiaki)
筑波大学・芸術系・教授
研究者番号：90272088

藤田 志朗 (FUJITA, Shirou)
筑波大学・芸術系・教授
研究者番号：10181356

程塚 敏明 (HODOZUKA, Toshiaki)
筑波大学・芸術系・准教授
研究者番号：40292544

守屋 正彦 (MORIYA, Masahiko)
筑波大学・芸術系・教授
研究者番号：90272187